

# 専門書家田中らんどう氏(64歳)村議選に 弥彦に転居して25年、是々非々で

## “弥彦明るい未来”の活動通して

## 情報公開、文化・芸術活動など

## 子どもたちが帰りたい村に

四月の弥彦村議会議員選挙に、弥彦村弥彦、県展無鑑査の専門書家田中らんどう(本名・田中健二さん)が立候補する。燕市出身で、弥彦村に転居して約二十五年。是々非々で臨むのが議員の本来の姿というスタンスで、田中さんは「弥彦が好きで引越してきて、弥彦を維持したいという情熱では負けない気持ちでいる」と意気込みを話している。

田中さんは昭和二十九画、物販などの会社を設け、五月五日、燕市で四人立。平成五年に帰郷し、兄弟の次男に生まれ、三いい環境で子どもを育てるほか、十二年から二十七年までは弥彦中学校特別非常勤講師として中学生を指導した。県書道協会副会長などに勤め、現在では専門書家として



四月の村議会議員選挙に立候補する田中らんどう氏

会副理事長、西蒲書作家連盟理事長も務める。二十六年には弥彦神社の門前町を活性化させようと弥彦明るい未来を考える会を発足。参宮通りのイベントや、小林豊彦村長らを迎えてのミニ集会などを開いた。

村長選への出馬は同考える会で活動するなかで行政に関心をもったことがきっかけ。選挙協力は、熊循環(ゆきひと)氏に協力した。田中さんは「小林さんの派の人たちに話すと『抜けたんじゃないか』と言われる。どっちの派か」と言われ、反対派には「小林さんじゃないの」と言われる。どっちの派か」と言われ、反対派には「小林さんじゃないの」と言われる。どっちの派か」と言われ、反対派には「小林さんじゃないの」と言われる。

現在の村議会は村長派と反村長派が激しく対立しているが、田中さんの立ち位置は「是々非々」。四年前の村長選では小林村長を応援したが、一月の村長選は、若い人たちがを応援したいと新人の小熊循環(ゆきひと)氏に協力した。田中さんは「小林さんの派の人たちに話すと『抜けたんじゃないか』と言われる。どっちの派か」と言われ、反対派には「小林さんじゃないの」と言われる。どっちの派か」と言われ、反対派には「小林さんじゃないの」と言われる。

事務所は自宅。選挙責任者などは決まっていないが、二月初めから弥彦地区から順にあいさつ回りを始めた。村内出身でないため、知名度は十分とはいえないが、村外の同級生らの紹介で支持者を掘り起す。弥彦九条の会員というところで革新、リベラル層の支持も期待できる。

田中さんは「議員は十人。十分の一の力でも声を上げて、東京にいる子どもたちが帰ってきた」といって村を維持したいと決意を述べる。

弥彦村議選は四月十六日告示、二十一日投票、即日開票される。

再三再決された競輪事業の外部監査については「情報公開」を正せば「一般会計」の徹底的なチェックが底、子ども、議員がチェックしな

開の徹底的なチェックが底、子ども、議員がチェックしな

開の徹底的なチェックが底、子ども、議員がチェックしな